

科目名		架構実習 I				
担当教員		大井 淳		実務授業の有無	○	
対象学科		建築大工科	対象学年	1	開講時期	前期
必修・選択		必修	単位数		時間数	96時間
授業概要、目的、授業の進め方		建築大工の技術者として基本となるな道具の知識・使用法、管理を学び、在来軸工法の基礎的な技術を実習を通して学ぶ 1. 説明→作業実習→添削と評価→修正を繰り返し行い基礎技術を身につける。 2. 加工、工法に応じた道具と、手順を理解し修練する。また習得レベル差ごとの指導も適宜行う。 3. 刃物など、注意が必要な道具を用いた授業のため、安全管理に留意する。				
学習目標 (到達目標)		建築工法が多様化している昨今、長い歴史と根強い人気を持つ在来軸組工法の基礎的な諸作業を行うことで、現在、建築大工として求められる心構えや知識、技能の基礎を身につけるとともに、社会に貢献できる職人として、また社会人としての人間力を備えた人材を育成することを目的とする。				
テキスト・教材・参考図書・その他資料		①大工技術を学ぶ I				
NO.	授業項目、内容			学習方法・準備学習・備考		
1	大工道具の準備、調整（道具箱制作） ①道具箱の作成、 ②鑿の刃研ぎ ③鑿、鉋、のこぎり等の調整 ④手入れ方法など			方法：授業に際しての注意、留意事項の説明。教科書等の教材と実習室の工具 材料を使って、実習課題の進めかたの説明 達成目標：健康、安全管理ができており、①～④の一連の作業ができています。 準備学習：教科書で作業手順を予習		
2	基本的な仕口 ほぞ穴等の加工（各種道具を使った加工） ①角材を使い仕口の墨付け加工 ②各種道具の正しい使用法			方法：授業に際しての注意、留意事項の説明。教科書等の教材と実習室の工具 材料を使って、実習課題の進めかたの説明 達成目標：健康、安全管理ができており、①～②の一連の作業ができています。 準備学習：教科書で作業手順を予習		
3	在来工法の各種仕口の習得（一般的な継手各種を習得） ①角材を使い墨付け、加工の修練 ②各種仕口加工を習得する			方法：授業に際しての注意、留意事項の説明。教科書等の教材と実習室の工具 材料を使って、実習課題の進めかたの説明 達成目標：健康、安全管理ができており、①～②の一連の作業ができています。 準備学習：教科書で作業手順を予習		
評価方法・成績評価基準				履修上の注意		
1：日々の各種道具の取り扱いや手入れ方法を前期を通し評価する 2：各種道具を適切に使用し、刃物、材木の特性を考慮した使用方法を 3：仕口ひとつひとつの名称 及び墨付け加工が正確に行えているか評価 取組姿勢50%、課題提出40%、出席10% 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。				前期のテーマは今後の授業のすべての基礎となるため。確実に習得できるよう毎日の目標を設定し授業に取り組みさせる。 知識と同時に技術を伴う内容のため、機能や管理方法を十分理解したうえで、道具等の安全な取り扱いに留意し繰り返し、積極的に実習に取り組み技術の習得を目指す。		
実務経験教員の経歴		建築大工として27年実務に携わる				

科目名		架構実習Ⅱ			
担当教員	上田 正義	実務授業の有無	○		
対象学科	建築大工科	対象学年	2	開講時期	前期
必修・選択	必修	単位数		時間数	96時間
授業概要、目的、授業の進め方	建築大工の技術者として基本となるな道具の知識・使用法、管理を学び、在来軸工法の基礎的な技術を実習を通して学ぶ 1. 説明→作業実習→添削と評価→修正を繰り返し行い基礎技術を身につける。 2. 加工、工法に応じた道具と、手順を理解し修練する。また習得レベル差ごとの指導も適宜行う。 3. 刃物など、注意が必要な道具を用いた授業のため、安全管理に留意する。				
学習目標 (到達目標)	2年間の集大成として実習場に住宅軸組の加工、組立を中心に行う。今までの技術を使い木材加工をし、また、実際の現場での動きなどを体に覚えさせながら習得する。また、2級技能士習得のための訓練を行う。				
テキスト・教材・参考図書・その他資料	配布プリント等				
NO.	授業項目、内容	学習方法・準備学習・備考			
1	大工実習場 モデルハウスの制作－1 ①住宅の基本である軸組の組み方 ②足場の組み方や現場での作業の仕方 実際の現場に出た時に困らない様雰囲気をつかめるようになる。	方法：授業に際しての注意、留意事項の説明。配布プリント等の教材と実習室の工具 材料を使って、実習課題の進めかたの説明 達成目標：健康、安全管理ができており、①～④の一連の作業ができています。 準備学習：配布プリント等で作業手順を予習			
2	大工実習場 モデルハウスの制作－2 ①墨付けの仕方 ②継手の選定方法、加工方法、建て方の順番	方法：授業に際しての注意、留意事項の説明。配布プリント等の教材と実習室の工具 材料を使って、実習課題の進めかたの説明 達成目標：健康、安全管理ができており、①～②の一連の作業ができています。 準備学習：配布プリントで作業手順を予習			
3	大工実習場 2級技能試験の練習	大工技能検定2級の課題を繰り返し何度も練習し、体に覚えさせる。			
評価方法・成績評価基準		履修上の注意			
課題評価：加工時間及び加工精度を課題採点にて評価 取組姿勢：課題への取り組み姿勢、班別実習の取り組み姿勢により評価 出席：授業への出席率で評価 課題評価60%、取組姿勢30%、出席10% 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。		実践的な作業として行うため、確実に習得できるよう毎日の目標を設定し授業に取り組ませる。 知識と同時に技術を伴う内容のため、機能や管理方法を十分理解したうえで、道具等の安全な取り扱いに留意し繰り返し、積極的に実習に取り組み技術の習得を目指す。			
実務経験教員の経歴	建築大工として40年実務に携わる				

科目名		架構実習Ⅱ			
担当教員	上田 正義	実務授業の有無	○		
対象学科	建築大工科	対象学年	2	開講時期	前期
必修・選択	必修	単位数		時間数	96時間
授業概要、目的、授業の進め方	建築大工の技術者として基本となるな道具の知識・使用法、管理を学び、在来軸工法の基礎的な技術を実習を通して学ぶ 1. 説明→作業実習→添削と評価→修正を繰り返し行い基礎技術を身につける。 2. 加工、工法に応じた道具と、手順を理解し修練する。また習得レベル差ごとの指導も適宜行う。 3. 刃物など、注意が必要な道具を用いた授業のため、安全管理に留意する。 4. 後半では、公共施設等の設備を制作し、実践的な校外実習も行う。				
学習目標 (到達目標)	建築工法が多様化している昨今、長い歴史と根強い人気を持つ在来軸組工法の基礎的な諸作業を行う実習を通して建築大工の心構えや知識、技能の基礎を身につけ、社会に貢献できる人材を育成する。				
テキスト・教材・参考図書・その他資料	①大工技術を学ぶⅠ				
NO.	授業項目、内容	学習方法・準備学習・備考			
1	火打梁作成 ①直角の2材間に45度の斜材(火打梁)の取り付け	方法：授業に際しての注意、留意事項の説明。教科書等の教材と実習室の工具 材料を使って、実習課題の進めかたの説明 達成目標：健康、安全管理ができており、①～④の作業ができています。 準備学習：教科書で作業手順を予習			
2	継手作成 ①1年次の復習：腰掛鎌継ぎ・蟻継ぎの作成	方法：授業に際しての注意、留意事項の説明。教科書等の教材と実習室の工具 材料を使って、実習課題の進めかたの説明 達成目標：健康、安全管理ができており、①～④の作業ができています。 準備学習：教科書で作業手順を予習			
3	住宅の階段の作成 ①目的や加工手順の体験 ②住宅の階段の作成(チーム作業)	方法：授業に際しての注意、留意事項の説明。教科書等の教材と実習室の工具 材料を使って、実習課題の進めかたの説明 達成目標：健康、安全管理ができており、①～②の一連の作業ができています。 準備学習：教科書で作業手順を予習			
4	屋外実習作業 ①動物ふれあいセンターのヤギの遊び場所 ・床デッキ貼り替え ・新規パーゴラの設置	方法：授業に際しての注意、留意事項の説明。教科書等の教材と実習室の工具 材料を使って、実習課題の進めかたの説明 達成目標：健康、安全管理ができており、①～②の一連の作業ができています。 準備学習：教科書で作業手順を予習			
評価方法・成績評価基準		履修上の注意			
各テーマ毎に出来上がりを目視し、墨付け、加工の正確さを説明、評価する。 墨付け、加工の正確さ100% 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。		前期の後半では、校外実習も実践として行うため、確実に習得できるよう毎日の目標を設定し授業に取り組ませる。 知識と同時に技術を伴う内容のため、機能や管理方法を十分理解したうえで、道具等の安全な取り扱いに留意し繰り返し、積極的に実習に取り組み技術の習得を目指す。			
実務経験教員の経歴	建築大工として40年実務に携わる				